

[成果情報名] マーガレット「テトラ」、「ニューレッドアイ」の長日による開花促進技術
[要約] マーガレットのオリジナル品種「テトラ」、「ニューレッドアイ」は9月定植加温栽培の作型で、11月上旬から3月上旬まで長日条件（深夜電照4時間）にすることにより、それぞれ28日、18日程度開花を促進することが出来る。
[キーワード] マーガレット、長日、開花促進
[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・花き科
[連絡先] 電話（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4319
[区分] 花き
[分類] 指導

[背景・ねらい]

県内で育成されたマーガレットのオリジナル品種のうち有望品種である「テトラ」（八重白色小綸、写真1）、「ニューレッドアイ」（一重白色茶目、写真2）の9月定植加温栽培において、切り花単価の高い冬期の収量を増加させるため、長日処理が開花促進に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「テトラ」は長日処理により、開花始めが1月16日となり、自然日長での栽培より28日程度早くなり、1月、2月の採花本数も多くなる。2月の切花長は長日処理で長くなる。（表1、図1、表2）
2. 「ニューレッドアイ」は長日処理により、開花始めが1月22日となり、自然日長での栽培より18日程度早くなり、1月、2月の採花本数も多くなる。2月から5月までの切花長は長日処理で長くなる。（表1、図2、表3）

[成果の活用面・留意点]

1. 冬季も採花を続ける場合は、最低温度は10℃で管理する。
2. 定植後、9月末までは40%遮光の寒冷紗をハウスに被覆する。

[具体的データ]



写真1「テトラ」

写真2「ニューレッドアイ」

表1 長日処理が採花始めに及ぼす影響

品種名	日長	採花始め	自然日長との差
テトラ	長日	1月16日	28日
	自然日長	2月13日	-
ニューレッドアイ	長日	1月22日	18日
	自然日長	2月9日	-

*長日処理 深夜4時間(22:00~2:00)

2006年11月1日~2007年3月5日

*耕種概要 定植:2006年9月4日

栽植密度:株間30cm、条間30cm、2条植え
最低夜温:10

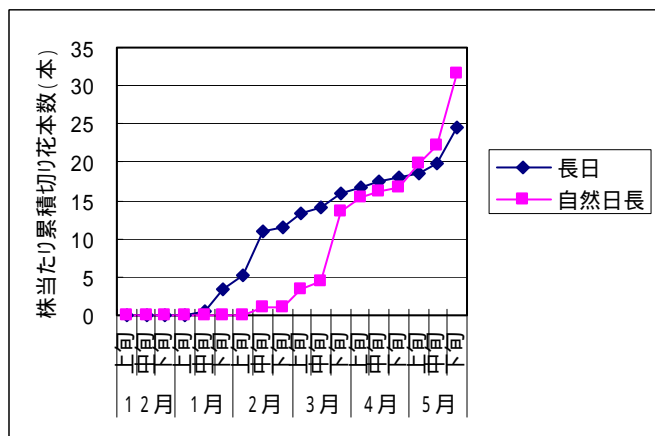


図1 長日処理が「テトラ」の株あたり累積切花本数に及ぼす影響

*長日処理、耕種概要は表1に同じ

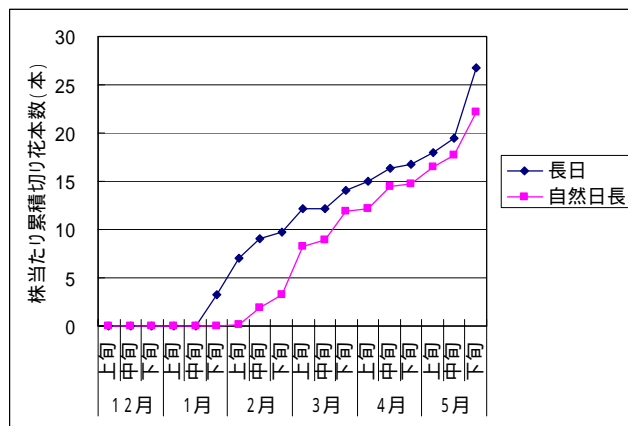


図2 長日処理が「ニューレッドアイ」の株あたり累積切花本数に及ぼす影響

*長日処理、耕種概要は表1に同じ

表2 長日処理が「テトラ」の月別切花長に及ぼす影響

処理区	切り花長(cm)					平均
	1月	2月	3月	4月	5月	
長日	80	85	89	83	76	78
自然日長	-	75	89	84	70	78

*長日処理、耕種概要は表1に同じ

表3 長日処理が「ニューレッドアイ」の月別切花長に及ぼす影響

処理区	切り花長(cm)					平均
	1月	2月	3月	4月	5月	
長日	95	113	114	104	81	101
自然日長	-	106	110	95	77	94

*長日処理、耕種概要は表1に同じ

[その他]

研究課題名:新規導入花きの技術開発

予算区分:県単

研究期間:2006~2008年度

研究担当者:諸岡淳司